

萬葉の内部と外部

久松潜一

文学に於ける内部と外部といふことをこの頃考へて居る。歴史や風土にしても文学にとつて外部であるか内部であるかは問題である。文学研究にとつて作品は最も具体的な存在であり、従つて作品の解明に中心があるとすれば、風土も文学にとつて内部となる。風土は内部としては景になる。敘景詩の景はそれである。萬葉集に於ける風土にしても萬葉集の内部にあるか外部にあるかといふ事が考へられる。自然や風土は萬葉の外部にあり、景は萬葉の内部にあるとも言へる。赤人によつてうたはれて居る富士山は萬葉の内部にあるが、自然としての富士山は外部にある。文学に於ける富士山は文学の内部にあるが、外部の富士山と別ではない。外部の自然や風土が文学の内部に景として造形されるのである。内部に造形された景が外部の自然や風土とどのやうに關聯するかといふ事も重要な課題である。

萬葉集の外部に於ける風土は文学ではない。しかし萬葉集の内部に於ける風土、いはば景とは相互に關聯して居る。萬葉集の内部としての風土、もしくは景を明らかにするために外部の風土や自然は地盤であり、背景であり、周辺であり、時には素材となる。内部に於ける風土や景は外部の自然や風土の反映であり造形である。文学に於ける内部と外部といふことは文学を考へる場合に重要な課題である。